

新規就農先輩の軌跡 No.26

新規就農者の素顔	農業経営の状況（現在）
<div data-bbox="231 331 753 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;">ご本人の写真</p> </div> <p>氏名：湯原 健一 住所：淡路市久留麻 年齢：43歳</p>	<p>農地：57a（借地57a） 施設：ガラス温室700㎡           ビニルハウス900㎡ 経営内容：花壇苗1年草40万ポット           宿根草10万ポット 労働力：本人、妻、常時雇用2人           パート2人</p> <div data-bbox="821 698 1150 952" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="1166 757 1385 929" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>花苗の出荷準備。一鉢ずつラベルを刺していく。</p> </div>
就農から現在まで	就農で良かった点、苦労した点
<p>2000年 伴園芸入社し、淡路農場勤務。 2005年 伴園芸退社、同年8月淡路農場を引き継ぎ就農 2006.10 就農定着対策事業 2009.7 園芸産地再生施設事業を活用し、パイプハウス増設 2010.3 認定農業者 2011.6 スーパーL資金により機械の充実</p>	<p>○良かった点 花の生産を通じて、多くの人と知り合え、仕事が拡大していったこと。 ○苦労した点 従業員の指導の難しさ、取引先の増減。</p>
農業をめざした動機	後輩へ贈る言葉
<p>植物園に勤務していたので、花を作るのは好きだった。いつかは花の生産者になりたいと思ったが、非農家のため、難しいと考えていた。研修先に入るとき「独立する気なら来い」と言われ、決断して入社。自分の中では4、5年を目途にという思いを常に持って研修していました。</p>	<p>本気で就農を目指すなら、自分一人では考えず、多くの経験者の意見を聞いて、良いところを取り入れてください。努力していれば必ず周りの人は手をさしのべてくれると思います。（私の場合は、多くの人に「これからの時代は花で食べていくのは無理だ」と言われました）</p>